

# 地域の人々が 楽しくなれば

玉縄地区スポーツ振興会会長

角田 勇さん

(岡本在住)

とくにスポーツに強い造詣や、深い思い入れがあったわけではない。「地域の方々と交流を深め、楽しく日々が過ごせれば」。そのためのお手伝い



なら「ちっとも苦にならなかったし、頼まれれば断ることもありませんでした」。

10年近く同地区のスポーツ振興会会長役を担ってきた理由でもある。

鎌倉市の教育委員会は「スポーツ振興法」に基づき、市民たちの健康増進や、住民の身近な立場からスポーツを普及させていく役割をもつ体育指導委員を、非常勤の職員として委嘱してきた。角田さんが地域のスポーツ振興にかかわり始めたのも、委員として活動を始めたのがきっかけだった。

## サラリーマン時代から体育指導委員に

勤め人の忙しい時間を割いて、地域のスポーツ振興活動に積極的に参加した。途中ブランクもあったりしたが20代の頃から、仕事の休みも返上

して地域のスポーツ振興活動にあてた。「ほどほどにはやりますが、上手なものはない」と笑うが、たいていのスポーツはこなし、専門的な指導は適任者を選び、ゆだねた。

体育指導委員の活動が認められ、玉縄地域の副会長などの責任ある役割を含め、地域のスポーツ振興に25年以上もかかわってきた。「地域での活動がバックボーンとしてあったからなんでしょうね。とくに動くことは嫌いではありませんから」。会長職も成り行きのようなもので、特に気負

い込むこともなく引き受けて10年近くが経過する。玉縄小学校の体育館を借りてバウンズボール大会や秋の町内対抗体育大会、それに歩け歩け大会等恒例化し、いずこでも角田さんが先頭に立つ。



「いつの間にか年月が経過して、私もいい年です。まだ、何とか身体は動きますのでせめて75歳ぐらいまではしっかりお手伝いして、あとは後継の人にバトンタッチです」。忙しい身であるが、今年は児童公園が使えないため、玉縄小学校の校庭を借りてラジオ体操も始まる。朝早い時間だが駆けつけて、町内の参加者たちには心ばかりのものだが、参加賞を会長から手渡す。

26年度から、岡本高砂会の会長を引き受けることになった。地域の老人会組織の代表でもあるが、これも黙って座っていれば良いわけではなく、最

近は老人会の組織率が低下して、会員の減少にどこの老人会も頭を痛める。該当する人達を一軒一軒訪ね、老人会への参加を訴えて歩いた。会長と言っても組織づくりのための営業マンでもある。

身体の動くうちは、求めがあれば引き受けようと、地域の鎮守様でもある「神明神社」の総代も務める。年に2度3度と祭礼や新年の催しがあるが、欠かさず顔を出し、全体の取りまとめ役を引き受ける。



## 20年つづけた保護司

一人の人がいろんな役回りを演ずるのは常だが、角田さんもあれこれとこなしながら、保護司としての役目を20年も続けてきた。非常勤の国家公務員として守秘義務などの守るべき事柄は多いが、無報酬のボランティアである。「40代の後半だったでしょうか。先輩から勧められてそのための教育も受けました。多い時は4人の人達の更生のお手伝いをしてました」。

保護観察と言う重要な任務を負う。殺人事件にかかわった人を含め、犯罪や非行を犯した人の更生のため、生活上必要な助言や就労の援助などに力を添える。これまで更生の道をたどった多くの人から「お蔭さまで結婚でき、幸せに過ごしてます」といった便りをもらったり、中には孫を連れてお礼に来る。「保護司としての冥利に尽きると言うか。役割を果たせた喜びを感じます」。当分、地域の活動から解放されそうにはない。